

【第 1 号議案】

2009 年度（2009. 7～2010. 6）活動総括および

2010 年度（2010. 7～2011. 6）活動方針

1. 2009 年度活動総括

(1) 研究交流活動

2009 年度は以下のように、2009 年 11 月、2010 年 3 月、2010 年 6 月に大図研京都ワンディセミナーを開催し、3 回程度のセミナー開催を目標とした年度目標を達成できました。1 回目は、サービス提案をテーマにしたグループワークを取り入れるという初の試みでした。2 回目は図書館員によるアプリケーションの開発とそれを支える体制をテーマに、3 回目は、情報リテラシー教育における図書館員と教員の連携をテーマに行いました。いずれの回も当日実施したアンケートで好評をいただいています。

また、セミナー広報については、従来のメーリングリスト等の他、昨年度から開始した案内チラシの送付対象に京都市内の大学の司書課程も追加しました。さらに、京阪神の大学図書館へのメールでの案内も展開しました。加えて、Twitter アカウト「daitokenkyoto」による広報も開始しています。

以上により、セミナー参加者数の大幅増を実現しました（2008 年度参加者総数：73 名。2009 年度参加者総数：115 名）。

なお、セミナー運営については、当日の運営への参加を募るなど、参加者との協働の試みもスタートしています。また、アンケート調査を行い、適切な参加費設定の検討を進めています。

1) 大図研京都ワンディセミナー「これからの大学図書館について考える：そのための視点と手法」

日時：2009 年 11 月 21 日（土）13:30～16:45

講師：井上創造先生（九州工業大学）

場所：京都市国際交流会館 第 2 会議室

参加費：大図研会員は無料／非会員は 500 円

参加者数：24 名

2) 大図研京都ワンディセミナー「サービス向上・業務効率化に使えるアプリを企画し試行提供する」

日時：2010年3月22日（月・祝）13:30～16:40
講師：前田朗氏（東京大学社会科学研究所図書室）
場所：京都市国際交流会館 第3・4会議室
参加費：大図研会員は無料／非会員は500円
参加者数：44名

3) 大図研京都ワンディセミナー「効果的な情報リテラシー教育を目指して：教育活動における教員と図書館員の連携」

日時：2010年6月12日（土）13:50～16:40
講師：長澤多代先生（三重大学高等教育創造開発センター）
場所：京大会館 211号室
参加費：大図研会員は無料／非会員は500円
参加者数：47名

(2) 支部報

発行期日の遅れは生じましたが、年度当初にコンテンツ作成計画を策定し、計画的発行に努め、所定の号数を発行しています。これによりセミナー等の感想や参加報告を掲載し、セミナー等に参加できなかった支部会員への情報提供をはかっています。

寄稿については、会員はもとより非会員からも幅広く得ることができましたが、会員に「発表の場を提供する」という目標の実現は、引き続いての課題です。

また、バックナンバーの電子化・保存を開始し、併せて、過去発行号の目次を遡及して支部サイトに掲載しています。この作業の完遂とこれに併せた国会図書館等への納本は、継続課題となっています。

なお、今年度発行した支部報の目次は、次のとおりです。

1) 支部報 No. 271 (2009/08/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第32回京都支部総会を開催しました
- * 2008年度活動総括および2009年度活動方針
- * 2008年度決算案および2009年度予算案、会計監査報告
- * 2009年度大学図書館問題研究会京都支部役員
- * 大学図書館問題研究会第32回京都支部総会 議事メモ・補足事項
- * 京都支部ワンディセミナーに参加して(伊賀由紀子)
- * 大図研京都支部ワンディセミナーの感想(久保山健)

2) 支部報 No. 272 (2009/10/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナーのご案内

- * 支部委員 挨拶
- * 第 40 回全国大会報告
- * 大図研京都支部忘年会のご案内

3) 支部報 No. 273 (2009/12/15 発行)

- * 新春合同例会のご案内
- * 10 年続く勉強会：京都大学図書系職員勉強会の紹介(石原三輪子)
- * カンボジア・大学図書館訪問記 etc(坂本拓)

4) 支部報 No. 274 (2010/02/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会京都支部 ワンディセミナーのご案内
- * 大図研京都ワンディセミナー参加報告 はじめての大図研(谷航)
- * 第 11 回図書館総合展報告：二度の出展を通して感じたこと(池田貴儀)

5) 支部報 No. 275 (2010/04/15 発行)

- * 大図研京都ワンディセミナーのご案内
- * 大図研近畿 4 支部新春合同例会参加報告 大学図書館とキャラクターについて(谷本千栄)
- * 「図書系職員のためのアプリケーション開発講習会」にみる講習会モデルとサービス向上・業務効率化への取り組み(大西賢人)
- * 興味や思いをかたちに変える ～アプリケーション開発講習会の魅力(吉田弥生)
- * 外付け機能が面白い！図書系職員が企画開発するアプリケーション(是住久美子)
- * 第 11 回灰色文献国際会議参加報告(池田貴儀)

6) 支部報 No. 276 (2010/06/15 発行)

- * 大学図書館問題研究会第 33 回京都支部総会のご案内
- * 大学図書館問題研究会第 33 回京都支部総会議案
- * 京都支部委員の募集について
- * 京都支部 Web サイト移設等のお知らせ
- * 大学図書館問題研究会第 41 回全国大会のご案内

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

ホームページでは、イベントのお知らせや、支部委員会の報告等、支部活動の記録を定期的かつ迅速に掲載しています。2010 年 6 月 30 日現在、8,405 アクセスを得ています（アクセスカウンター設置：2006 年 8 月 22 日）。今年度よりアクセス解析を開始し、Web サイト充実の検討材料としています。また、Web サイトおよび ML「yurikamome」の運用について

て、独自契約プロバイダから本部契約プロバイダのサイトへの移行を完了しました。これにより、契約費用の圧縮とともに、今後のコンテンツ充実に備えた容量アップを実現できました。

メールマガジンは、「大図研京都支部 NewsLetter」として、no. 84 (2009年8月7日) から no. 107 (2010年6月29日) を発行しました。支部委員会議事録、支部企画案内等を随時送信することで支部活動をお知らせするとともに、月1回のイベント案内を定期的に発行し、好評を得ています。

(4) 組織活動

会員数は、2010年7月1日現在65名で、2009年度当初から1名の減少です。図書館から異動等に伴う退会がありながらも、新規会員を得ることできています。これは、セミナー案内チラシへの入会案内同封や個別の勧誘等も積極的に行うなどした結果、セミナー参加者から入会者を得るなどの成果に繋がったものです。

(5) 財政

昨年度に引き続き、会費納入率の向上に努め長期滞納者0名を実現できています。また、所定の会費徴収スケジュールに則った計画的な督促業務を行うことによって、低い未納率も維持できています。なお、各年度の未納率は次のようになっています。2007年度2%、2008年度4%、2009年度12%、2010年度58%(2006年度以前は0%。休会扱い1名を含む)。

(6) その他

全国大会では、支部会員から意見を募った上で大図研の運営改善等に関する提案を行いました。また、大図研Webサイトの更新プロジェクトについても提案を行っています。

その他、例年どおり「大学の図書館」うち、1号の編集を担当しています。

2. 2010年度活動方針

(1) 研究交流活動

会員のニーズに応じた研究活動の充実をはかり、会員の専門的力量形成と交流に役立てるため、セミナー等を2回以上、開催します。また、積極的な参加と交流の実現のため、セミナー企画段階からの参加募集を試行します。適切な参加費設定の検討も引き続き進めていきます。なお、地域における積極的な参加を促すため、京都および周辺地域の大学図書館等、関連する組織への広報も継続していきます。

(2) 支部報

定期発行と正確で読みやすい誌面の作成とともに、広く寄稿を求めかつ連載記事を企画することにより、コンテンツの一層の充実に努めます。また、自己啓発や会員間交流の場としての支部報のみならず、より多くの会員に「発表の場を提供する」支部報となるよう引き続き努力します。なお、バックナンバーの電子化・保存および過去発行号目次の支部サイトへの遡及掲載作業を進め、国会図書館への納本及び大学図書館への寄贈の実現を図ります。

(3) Web サイト、メーリングリスト、メールマガジン

京都支部の活動に関する情報をわかりやすくかつ迅速に提供するため、Web サイトを随時更新します。とくに支部報記事の電子化による積極的な公開や会員リンクの充実など、コンテンツの拡充と会員間コミュニケーションの促進を一層強化します。また、メールマガジンの定期的な発信を継続するとともに、Twitter アカウントの積極的活用を模索します。

(4) 組織活動

大学図書館問題研究会および京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。セミナーをはじめあらゆる機会をとらえ、関連組織への広報の実施と入会の勧誘に努めるだけでなく、魅力的な会報づくりや有益なセミナーの開催、会員交流の場の提供等、充実した支部活動を行います。

(5) 財務

所定の会費徴収スケジュールに従い、個々の会員へ個人別会費納入状況のお知らせや振込用紙の発送を行うことで、会費納入率を維持します。また、長期滞納者を作らないため、滞納の兆候が見られた段階での積極的な督促を行います。なお、節約の結果として積み立てられた予備費を効果的に活用する方策として、有料の講師や連続セミナーに向けての積立金を作成するものとするなど、研究交流活動の一層の充実策を引き続き検討します。